

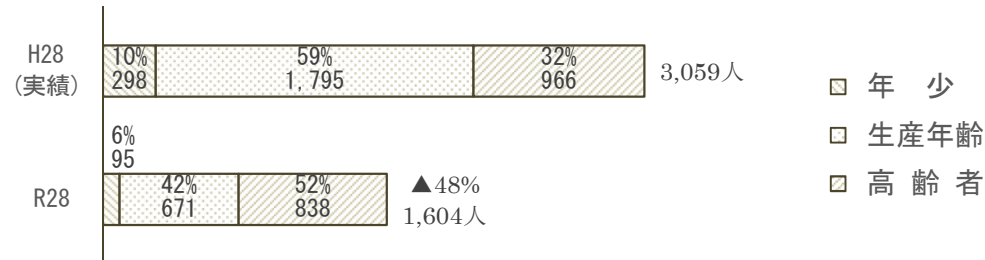
## 【概要】

## ① 地域概況、動向

- ・地域は西区の南部に位置し、地域の西側を国道 116 号バイパスが南北に縦断している。
- ・農地が広がり、住宅地は西川沿いに形成されている。
- ・公共施設は中野小屋連絡所付近に集積している。

## ② 将来推計人口【図－1】

- ・人口減少、少子・高齢化が顕著な地域である。



## ③ 利用状況、コスト状況及び施設の老朽状況【表－1】

施設種類	施設名	ハード		ソフト		
		老朽化が進んでいる	耐震性に課題がある	コストが高い	利用が少ない・面積が大きい	
		償却率が75%以上か	耐震化率が50%未満か	コスト(※1)が類似施設の平均と比べ高いか	利用率(※2)が該当する類似施設の平均と比べ低い	利用量(※3)が該当する類似施設の平均と比べ大きい
①コミュニティ施設	中野小屋公民館			●	●	
⑦高齢者福祉施設	老人憩の家明和荘	●				●
⑩学校教育施設	笠木小学校	●		●		●
	小瀬小学校	●		●		●
	中野小屋中学校	●		●		●

※1 コスト評価の指標：純経費/利用者数…①⑦、純経費/児童数…⑩（小学校）、純経費/生徒数…⑩（中学校）

※2 利用率評価の指標：利用コマ数/利用可能コマ数…①

※3 利用量評価の指標：㎡/児童数…⑩（小学校）、利用者数/㎡/日…⑦、㎡/生徒数…⑩（中学校）

## ④ 将来に向けた検討事項

I の考え方を基本に、II のそれぞれのサービス機能ごとの考え方に基づいて最適化を検討する必要がある。

## I 共通の方針に基づく検討事項

- ・誰もが利用できる地域密着施設は将来的に原則 1 か所を目指しつつ、圏域の広さや施設利用率、人口等を勘案し集約化、複合化を検討する必要がある。
- ・特定目的の施設は誰もが利用できる地域密着施設との集約化、複合化を検討する必要がある。

## II 施設種類ごとの配置方針に基づく検討事項

## 【コミュニティ系施設】

- ・中野小屋公民館は、中野小屋連絡所と複合し、地域内唯一のコミュニティ系施設であるが、地域の活動拠点としての機能維持を前提として、他の施設への機能移転や大規模改修に併せ、他の機能との複合化を検討する必要がある。

## 【高齢者福祉施設】

- ・老人憩の家明和荘は、配置方針に基づき、更新を行わないため、多世代交流が可能な地域拠点施設への機能移転を検討する必要がある。

## 【学校教育施設】

- ・小瀬小学校、笠木小学校、中野小屋中学校は小規模校であることから、配置方針にも掲げた学校の適正規模の考え方に基づき、適正配置を検討する必要がある。併せて、当面の施設の効率的な利用を目指し、教育活動や学校運営に支障のない範囲で余裕教室の利活用を検討する必要がある。また、施設の統廃合による更新時期に合わせて、市民の利便性の向上や効率的な管理・利活用につながる多機能化・複合化の検討が必要である。
- ・笠木小学校はすでに複式学級が生じており、小瀬小学校も R2 年度から複式学級が生じる見込み。

## ■ 将来推計人口【表－2】(H28.9月末現在の住民基本台帳からの推計)

	H28(実績)	R8	R18	R28	増減(増減率)	
地域全体	3,059 人	2,578 人	2,107 人	1,604 人	▲1,455 人	▲47.6 %
高齢者(65歳以上)	966 人	1,068 人	963 人	838 人	▲128 人	▲13.2 %
生産年齢(15~64歳)	1,795 人	1,326 人	1,001 人	671 人	▲1,124 人	▲62.6 %
年少(14歳以下)	298 人	183 人	143 人	95 人	▲203 人	▲68.1 %

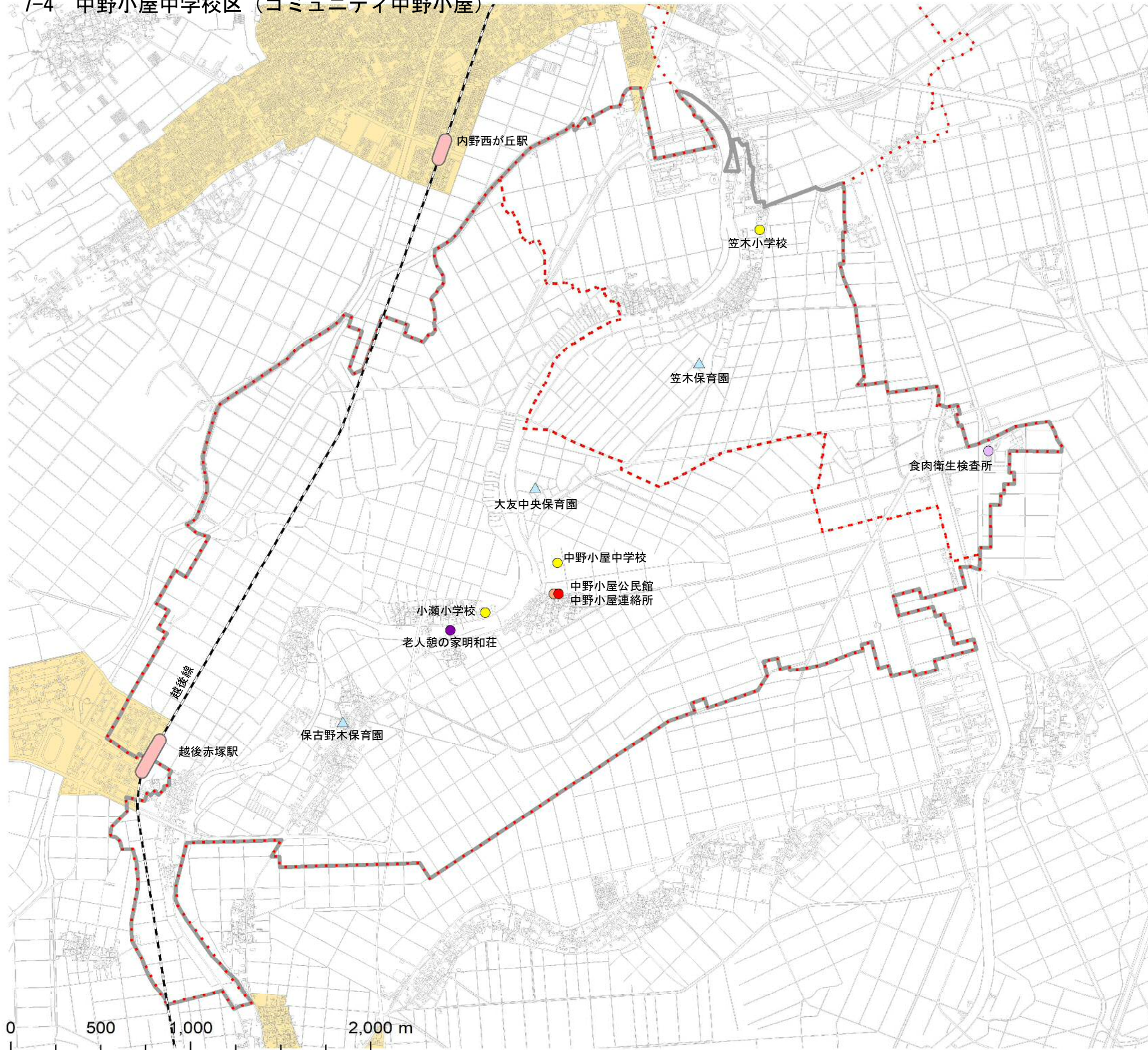
## ■ 児童生徒・学級数推計(通常学級)【表－3】

校名	R1(実数値)		R7(推計値)		増減	
	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数
小瀬小学校	58	6	39	4	▲19	▲2
笠木小学校	35	4	27	3	▲8	▲1
中野小屋中学校	51	3	40	3	▲11	0



7 西区

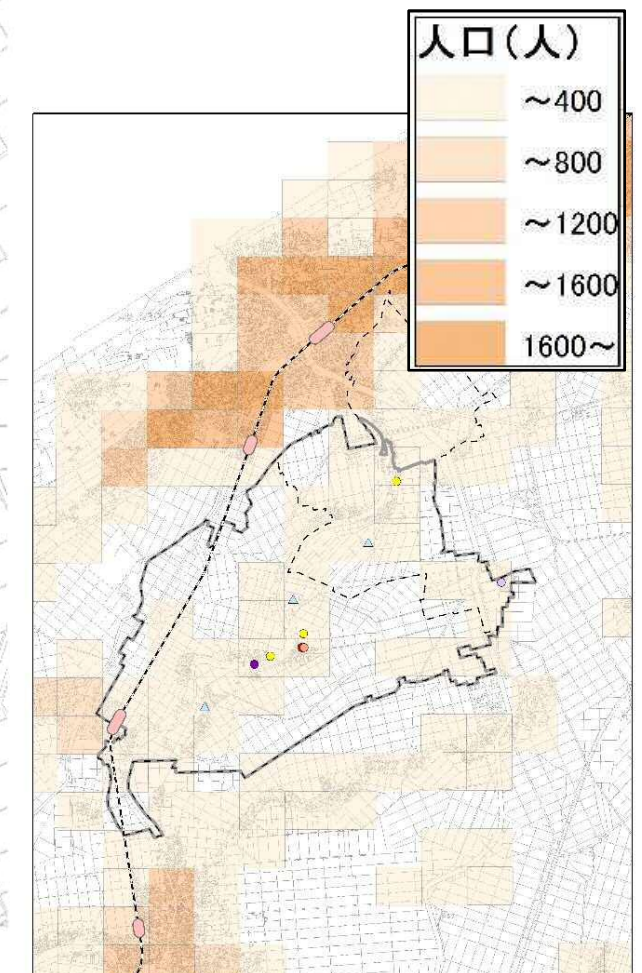
7-4 中野小屋中学校区 (コミュニティ中野小屋)



凡例

- コミュニティ系施設
- 高齢者福祉施設
- 学校教育施設
- 庁舎系施設
- その他行政系施設
- ▲ 保育園(民間施設)
- ⋯ 小学校区
- 中学校区
- ▭ 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域

平成27年国勢調査  
人口分布図 (500mメッシュ)



※中学校区線・小学校区線は概図であり、細部については実際の通学区域と異なる場合があります。



## ■ 施設一覧【表-4】

施設分類	分析分類 ※1	施設名	施設基本情報							配置情報					コスト・利用情報						
			圏域 区分	複合 施設	建築年	償却率 (%) ※2	耐震化 (%)	想定 更新 時期 ※3	使用面積 (㎡)	用途地域	コミュニティ 協議会	避難所 ※4	危険区域			コスト		利用率・利用量			分析 領域
													土砂	津波	洪水	実績(全市平均)	偏差値	実績(全市平均)	実績(全市平均)	偏差値	
コミュニティ系施設	B	中野小屋公民館	Ⅲ. 地域	1	S58	70	100	R25	390.28		中野小屋					1,897.0 円/人/回 (928.1)	42.8	6.5 % (26)	-	38.1	4
高齢者福祉施設	O	老人憩の家明和荘	Ⅲ. 地域		S40 ~ S57	77	100	R7	353.01		中野小屋					740.0 円/人/回 (952.1)	52.2	23.3 人/日 (51.8)	6.6 人/100㎡/日 (11.5)	42.3	2
学校教育施設	H	笠木小学校	Ⅲ. 地域		S58 ~ S61	77	100	R25	3,295.95		中野小屋	○		○		261.9 万円/人/年 (83.6)	8.9	84.5 ㎡/人 (24.4)	-	11.0	4
学校教育施設	H	小瀬小学校	Ⅲ. 地域		S55 ~ H3	87	92	R22	2,914.70		中野小屋	○				163.4 万円/人/年 (83.6)	31.6	39.4 ㎡/人 (24.4)	-	40.3	4
学校教育施設	I	中野小屋中学校	Ⅲ. 地域		S53 ~ H8	78	97	R27	4,122.06		中野小屋	○				254.3 万円/人/年 (91.6)	8.9	82.4 ㎡/人 (31.3)	-	22.9	4
庁舎系施設	-	中野小屋連絡所	Ⅲ. 地域	1	S58	70	100	R25	367.50		中野小屋					-		-	-		
その他行政系施設	-	食肉衛生検査所	I. 全市域		H5	52	100	R35	721.33		中野小屋			○	○			-	-		

【記載の条件】一覧表掲載情報は、令和2年4月1日現在で財産白書の対象施設を掲載しています。また、コスト・利用情報は、令和元年度財産白書別冊から引用しています。

※1 分析分類欄の英字は、施設のコスト、利用を比較する現状分析の分類を表し、「地域別検討資料について」の「表① 用途分類別分析指標と現状分析の分類」から引用しています。

分析分類欄が「空白」の施設は平成30年度以降に新設又は新規調査した施設であり、現状分析の対象とはならないものの参考として施設情報を掲載しています。

※2 償却率は「減価償却累計額/再調達価額×100」により算出しており、財産上の残存価値（耐用年数からの経過）の基準とし建物老朽化の目安としています。

※3 建替え想定時期は、鉄筋コンクリート及び鉄骨造を60年、木造及び軽量鉄骨造を40年と想定して算出しています。

※4 指定避難所を「○」印、補助避難所を「◇」印で表記しています。

## ■ その他の施設【表-5】

地域内の国県施設	該当なし
地域内の民間類似施設	保古野木保育園、大友中央保育園、笠木保育園